

出張報告書

令和7年11月12日

市議会議長 烏野 隆生 様

会 派 名 公 明 党

代表者氏名 岩崎 雅秋

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 ソーラー街路灯の活用について
学力向上施策について
不登校児童生徒支援について
- 2 出 張 先 新潟県魚沼市
長野県長野市
- 3 出張期間 令和7年11月10日（月）～11日（火）
- 4 出張者氏名 米田 貴志、友永 修、南 加代子、桑原 佳一
- 5 てん末報告 別紙の通り

令和7年度 公明党会派視察レポート

氏名

南 加代子

視察先	新潟県魚沼市	テーマ	ソーラー街路灯の活用について
日時	令和7年11月10日(月)13時00分~14時30分		
市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について			
<p>このたび、新潟県魚沼市におけるソーラー街路灯の活用状況について視察を行いました。同市では令和2年に建設された新庁舎前を中心に、9本のソーラー街路灯が設置されており、総事業費は約1,500万円とのことです。これらの街路灯は太陽光発電によって蓄電池に電力を蓄え、平時には電気自動車の充電に、災害時には携帯電話等の充電にも活用できる仕組みとなっています。</p> <p>特に印象的だったのは、停電時でも光源を確保できる点です。夜間の避難や情報収集において、明かりがあることの安心感は非常に大きく、市民の安全を支える設備としての重要性を改めて認識しました。また、年間約6トンのCO₂排出量削減効果があるとのことで、温暖化対策の一翼を担う設備としても高く評価できます。</p> <p>魚沼市では、豪雪地帯という地域特性を踏まえ、街路灯の壁面設置や庁舎屋上の水張り構造など、雪害対策にも工夫が凝らされており、地域に根ざした柔軟な設計が随所に見られました。さらに、庁舎車庫の屋根にはソーラーパネルが設置されており、非常時には電気自動車への直接充電も可能となっているなど、再生可能エネルギーの活用と災害対応を両立させた先進的な取組が印象的でした。</p> <p>魚沼市では、こうした設備整備と並行して、脱炭素社会の実現に向けた計画も着実に進められており、環境負荷の低減と地域防災力の向上を同時に叶える姿勢に、持続可能なまちづくりへの強い意志を感じました。</p> <p>本市においても、町会による防犯灯設置への補助制度があり、夜間の安全確保に向けた取組が進められています。今後、ソーラー街路灯の導入が進めば、災害時の光源確保に加え、電気代の抑制や維持管理費の軽減にもつながり、町会や自治会の負担軽減にも寄与するものと考えられます。</p> <p>特に、以下のような場所への設置が有効と考えます：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 建設予定の新庁舎周辺			

- ・ 一時避難場所となる市民センター
- ・ 各町会・自治会の避難物資倉庫前
- ・ 災害時の避難経路や集合場所

これらの場所に光源を確保することで、市民の安心・安全を支えるインフラとしての価値は非常に高く、導入の効果は大きいものと確信しています。

今回の視察を通じて、魚沼市の事例は、環境対策と防災機能を両立させた先進的な取組であり、本市においても地域特性を踏まえた導入の可能性を前向きに検討すべきと考えます。市民の命と暮らしを守る「光」の確保を、環境にやさしく、持続可能なかたちで実現するために、今後の施策に活かしてまいりたいと思います。

公明党（会派）行政視察レポート

報告者

友永 修

視察先	長野市	テーマ	学力向上施策及び不登校児童生徒について
日時	令和7年11月11日（火）09時30分～11時45分		
市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について			
<p>全国学力テストで、長野市は全国平均の数値を推移し続けている。そこで、どのような学力向上施策を取り組んでおられるのかお伺いした。平成27年から29年までを「第一期しなのきプラン」平成30年から令和2年までを「第二期しなのきプラン」として、長野市の学力観を定義し、「生きる力」をつけるための学力保障と確かな学力の育成で知・徳・体をバランスよく伸ばすことを目的に、A学力（知識・技能）B学力（活用、思考力・判断力・表現力）C学力（意欲・態度）の三つにわけ、特にA・B学力に取り組まれたそうです。そして、令和3年から5年を「第三期しなのきプラン」として、C学力に力を注いだとのことである。また、第二期までのC学力で大切にしていた「未来力・自律力・絆力・実践力」を第三期では、「自学自習の資質能力」の伸張とし、特化した取り組みを進められた。学校での学びを、将来の「明日を切り拓く力」へとつなぐため、子どもたちが自ら問いをもち、自ら学びを進める「自学自習」を中核に据え、その周りを囲むように、「健やかな心と体」「自然との関わり・生命尊重」「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」「道徳性・規範意識」「思考・判断・表現」「自主・自律・自立」「協調性・協同性」「コミュニケーション」の9つの項目を位置付けられた。これが根本にあり、そこから、「自学自習」の姿を伸張するために具体的な取組を進められた。また、テストの結果などは数値化できる認知能力であるが、意欲や態度など「自学自習の資質能力」は数値化しにくい非認知能力に分類されることから、「自学自習の資質能力」について、未来に向かって自分を高める「みらい」他者を思いやりつなげる「きずな」自分をよりよい状態にする「じりつ」の3つの観点で、さらにそれを9つの行動に分け支援の充実につなげられている。分析するために、「しなのきFinder」と銘うち数値化しにくい子どもの状態を測定するアンケート（世界的に実施されているSDQ、子どもの強さと困難さアンケート）調査を年2回実施している。そして、分析から数値化し、必要な支援</p>			

の具体化につなげている。長野市では、結果に表れていて取り組みが好循環に続けられています。また、その理由の一つとして、教員の資質も重要であるとの話も伺った。取り組みの全てに、しっかり子どもの状態を観る・子どもの声を聴く・子どもと対話するといったものが感じられる施策である。本市も取り組むべき施策と考える。

次に、不登校児童生徒への支援についてですが、長野市では、不登校児童生徒の居場所として、7か所の教育支援センターが設置されていて、令和6年度に8つめの教育支援センター「SaSaLAND」が開設されました。まず、8か所のスタッフについて確認すると、既存の7か所については、狭いスペースで規模が小さく各1名の常駐スタッフで対応しており、応援が必要な場合は、教育委員会の指導主事が対応しているとのこと。SaSaLANDについては、7人+ドライバーや事務員等で構成されており規模も大きい。SaSaLANDに特化して報告するが、一つの特徴として、オンラインの世界で交流を深められるメタバースを導入していて、教育センターやフリースクールにも通えない子どもへの支援につなげています。その他、信州大学との連携でボランティアの学生さんたちが、熱心に協力してくれ様々なイベントを開催されていることに驚きました。余談だが、ご説明していただいた課長は、信州大学のサポートがあったればこそそのSaSaLANDであると言われていました。また、近隣との交流活動として、近隣の高等学校との交流で、「ペタンク体験」「カヌー体験」などを行ったところ、中学3年生の生徒が自分の夢を語ってくれ、高校進学への気持ちをもつことが出来たとのエピソードをお聞きした。とても素晴らしい取り組みだと感動させていただきました。他にも、地域の団体との交流で「竹ランタンづくり」などのモノづくりを通じてコミュニケーションを図り、子どもたちが社会との関わりを体験できるようなイベントが多く開催されている。子どもたちが安心を実感できる居場所となっています。そして、保護者への支援として、意見交換ができる「親の会」「ペアレントトレーニング」の開催。また、教員も含めた保護者への不登校に関する研修なども実施しているとのこと。とても支援が充実してるなと感じます。その上、フリースクールとの連携もしっかりとれていて、22か所の施設を居場所紹介誌に掲載しているとのこと。本市でも実施すべき取り組みと考える。また、訪問型アウトリーチ支援事業もきめ細かく実施されている。事例として、共通の趣味をもつスタッフとオンラインでつながり交流を深めながらの支援や近所の公園や玄関先で遊んだりしながら、支援を継続するなかで、SaSaLANDへの登録を決意し次の支援につながるなど成果がでていそう。地味で大変な活動

であります。関係者の方々が必死にサポートしてくれているなど伝わります。本市でも様々な不登校児童生徒への支援に取り組まれているのは理解しているが、長野市の取り組みを参考にもう一歩、もう二歩の支援に繋がるよう推進していきたいと思えます。 以上

Blank lined area for additional text.